令和元年四月投句

三角の屋根の先より春の月
半身を晒し砂出す浅蜊かな
下校の子鵲の巣を教へくれ

面接の固き机に窓のどか
桃の花将門塚はこの近く
街の灯はみな蠢いて春の闇

遺言めく母の言葉も春灯下
花冷の夜にも母の厨事
気がかりをみな話しおき夜半の春

節子

折り畳みテーブル花下に親子連れ
棹を手に船頭花下の船着場
雪洞を連ね境内八重桜

勝利

遥か来しアルハンブラの春灯
乗り継ぎの空港に見る春の雪
中世の城春翳のアラベスク

真理子

光子

由紀子